

論文審査の要旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

土井 駿一

主論文の題目
および
掲載・審査委員

題目：Prognostic Value of Mini Nutritional Assessment Short Form with Aortic Valve Stenosis Following TAVI（経皮的動脈弁置換術後患者への簡易栄養状態評価表の予後予測因子としての重要性）

掲載誌：ESC Heart Failure 2020.10 (in Press)

主査 大坪 毅人
副査 佐々木 信幸
副査 民上 真也

[論文の要旨・価値]重症動脈弁狭窄症に対する経皮的動脈弁置換術（TAVI）は開心術施行にはリスクの高い患者に対しても弁置換術を安全に行うことができる治療である。しかし TAVI をより安全かつ意義あるものとするためには術前の状態から周術期や術後の転帰を予測する因子を評価することが重要である。このことについてこれまで幾つかの報告がなされているが、十分に検討されているとは言い難い。そこで申請者らは、低栄養の標準的スクリーニングとして推奨されている簡易栄養状態評価表（Mini Nutritional Assessment Short Form:MNA-SF）を用いて TAVI 後の予後の予測に有用かどうかについて検討を行った。対象は当院で TAVI を実施した 360 例中 MNA-SF 評価が可能であった 288 例である。結果は以下の通りである。検討期間は 458 日で平均年齢 84 歳。追跡期間中に 288 例中 41 名が死亡した。うち心血管 EVENT による死亡は 25%であった。Cox 回帰モデルによる単変量解析では、MNA-SF、脳性ナトリウム利尿ペプチド、STS score 及び Katz index が全死亡率と有意な関係を認め、多変量解析では MNA-SF は独立した予後予測因子であった（Hazard Ratio1.14, p=0.04）。また Kaplan-Meier 解析で MNA-SF 保持群(12 点以上)は MNA-SF 低下群(12 点未満)に比較して優位に生存率が高値であった(P=0.01)。以上より本論文は TAVI 術前に評価した MNS-SF は術後の全死亡に対する独立した予後予測因子であり、MNS-SF は TAVI 後の中期的な予後を予測しうることを示した価値ある論文である。

[審査概要] 学位審査は、令和 2 年 1 2 月 2 日午後 6 時よりおよそ 1 時間、教育棟 5 回セミナー室において、指導教授をはじめとする数名の陪席のもと行われた。まず、申請者より 20 分程研究内容についての発表の後、内容について質疑応答が行われた。発表内容は簡潔にまとめられており理解しやすいものであった。副査及び主査からの研究の目的、結果の解析、今後の展望、低栄養と心疾患の罹病期間などの質問に対し、申請者は常に真摯な態度で対応し、いずれの質問に対しても的確に返答していた。

最終試験結果の要旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]本審査を通して申請者は十分な研究能力、専門的な学識を有すると判断できた。また英語の読解力については、引用文献の一部の音読、和訳により十分な読解力を有すると判断した。以上より、申請者土井 駿一君は学位授与に値すると判断した。